

月刊しばうら

2022年 10月号

牛肉営業部

令和4年度全国肉用牛枝肉共励会
セリ販売日 10月28日（金）

令和4年度全国肉用牛枝肉共励会が、来る10月25日(火)～10月29日(金)にわたり開催されます。当共励会は、肉用牛肥育技術の確立と枝肉の肉質向上ならびに経済性の増進に資するため、東京食肉市場に出荷実績を持つ全国各地の出荷者によって肥育された牛が、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始めとした数々の栄誉を競います。出品頭数は500頭の上場頭数にて開催され、和牛去勢牛が272頭、乳用去勢牛及び交雑去勢牛が70頭、和牛牝が158頭を予定しております。

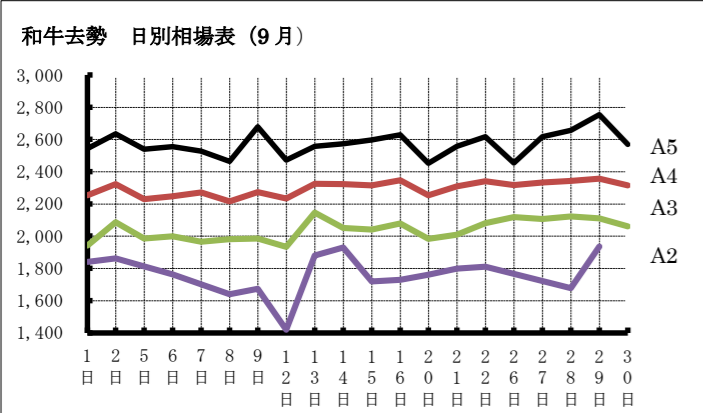
なお、本年は新型コロナウイルス感染症の影響により前夜祭及び褒賞授与式は中止とさせていただきます。何とぞ事情ご賢察のうえ、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

<行事予定>

- 10月25日（火）午前10時00分より出品牛測定（和牛牝）
- 26日（水）午前8時30分よりと畜解体（和牛牝）
午前10時00分より出品牛測定
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
- 27日（木）午前8時30分よりと畜解体
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
- 28日（金）午前6時30分より枝肉審査
午前8時45分よりせり販売

<9月の相場動向>

新型コロナウイルス新規感染者数は数万人規模で推移し、外食需要は低迷している。また、ロシアによるウクライナ侵攻、円安の影響を受け、食品等生活費が増高し、消費意欲の減退に拍車をかけ、牛肉需要は引き続き厳しい状況下にある。量販店では棚替えの時期であったが、残暑の影響でスライス需要へのシフトに結びつかず、また大型連休中の台風直撃により、消費の盛り上がりは見られなかった。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比	前月比		
A5	2,586円	-97円	96.4%	103円	104.0%
A4	2,302円	-12円	99.5%	110円	104.8%
A3	2,045円	-23円	98.9%	41円	102.0%
A2	1,772円	-18円	99.0%	-34円	98.1%

交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,687円	-32円	98.1%	-15円	99.1%
B3	1,505円	-10円	99.3%	9円	100.6%
B2	1,319円	-19円	98.6%	5円	100.4%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	1,080円	—	—	—	—
B2	980円	-44円	95.7%	72円	107.9%

<10月の牛肉輸入量予測>

財務相が発表した輸入通関実績によると、8月の輸入量は前年同月比0.5%減の5万3,532tで、うちチルドは16.2%減の1万9,572t、フローズンは前年同月比11.6%増の3万3,960tとなった。フローズン増の要因は、アジア諸国の買付抑制に伴う現地での荷余りが考えられる。農畜産業振興機構によると9月は6.3%減の4万7,400t、10月は17.0%減の4万5,800tと予測している。

輸入牛肉通関量		8月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,689	7,719	86.7%
	米国	10,092	12,805	78.8%
	その他	2,791	2,820	99.0%
	合計	19,572	23,344	83.8%
フローズン	豪州	11,515	12,071	95.4%
	米国	12,322	8,823	140.0%
	その他	10,123	9,546	106.0%
	合計	33,960	30,440	111.6%

出典：食肉速報 単位：t

<10月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による10月の出荷予測頭数は、全体で前年比103.1%の9万3,600頭で、品種別にみると和牛は1.6%減で3万9,900頭、交雑種は13.0%増の2万2,600頭、乳用種は3.1%増の2万9,600頭と予測している。東京食肉市場の10月のと畜頭数は7,550頭を予定しています。

<10月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるものの、依然として高い数値で推移しており、今後しばらくは継続するものと思われる。また、ロシアによるウクライナ侵攻や円安の長期化を受け、食品、原油価格等が相次いで高騰し、国内の消費マインドは冷めた状況が続くと予想され、牛肉需要を取り巻く環境は厳しい状況が継続する見込みである。

和牛の輸出需要については、今年度に入り冷え込んでいたものの、徐々に回復傾向にあり、数量ベースで8月までの暦年累計実績は前年比117.7%となった。引き続き輸出拡大に期待したい。

和牛去	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500～2,800	B4	1,650～1,850
A4	2,300～2,450	B3	1,450～1,600
A3	2,150～2,250	B2	1,300～1,400
A2	1,950～2,100		
乳牛去			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

豚肉営業部

8月の全国と畜頭数は、前年同月比0.3%減の132万1,463頭。また、8月の豚肉通関数量は8万6,577t（前年同月比10.7%増）と前年を上回り、前月比は4.2%の増加となった。

内訳はチルドが3万3,861t（0.6%減）と減少した一方、フローズンは5万2,717t（19.4%増）と大幅に増加した。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
9	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
10	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
11	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
12	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
1	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
2	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
3	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
4	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
5	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
6	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
7	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
8	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
9	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
比	99%	111%	89%	126%	99%	107%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

8月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,052	98.2%	デンマーク	7,149	82.9%
カナダ	15,699	97.5%	スペイン	18,698	158.6%
メキシコ	2,109	129.7%	メキシコ	9,001	105.1%
			アメリカ	3,392	113.3%
			カナダ	2,918	107.2%
合計	33,861	99.4%		52,717	119.4%

単位：t

<9月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	58,300	649	631	544
2日	53,900	634	615	868
5日	64,400	617	604	621
6日	63,400	613	608	805
7日	60,800	608	599	667
8日	62,700	611	599	753
9日	62,000	621	605	910
平均	60,786/日			738/日

9月に入っても全国的に出荷頭数は増加傾向とはならなかった。全国と畜頭数は6万頭前半で推移した。月初の手当や、学校給食向けの荷動きなどが戻っており、枝肉相場は高値で推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	63,200	624	615	660
13日	65,600	660	647	884
14日	64,000	652	643	676
15日	65,200	658	642	595
16日	66,200	655	647	880
20日	69,100	658	646	622
21日	67,200	655	645	1,057
平均	65,786/日			768/日

シルバーウィーク前の手当によって相場は上中格差なく強含みの展開となった。朝晩の気温が徐々に下がり始め、量販店では鍋物に向けたバラなどのスライス系の引き合いも強まってきた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	71,200	662	650	976
26日	69,200	657	645	906
27日	69,300	660	656	837
28日	66,100	656	653	789
29日	65,500	649	642	594
30日	63,200	668	654	796
平均	67,417/日			816/日

今年のシルバーウィークは行動規制のない連休となったが、行楽需要や外食需要は、台風など悪天候の影響を受け、期待されていたほど伸びなかった。比較的タイトな状況下にあったものの、輸入物が為替や通関遅れの影響を受けたことで、相場は引き続き600円台の強もちあいの展開となった。

<10月の豚枝肉相場見通し>

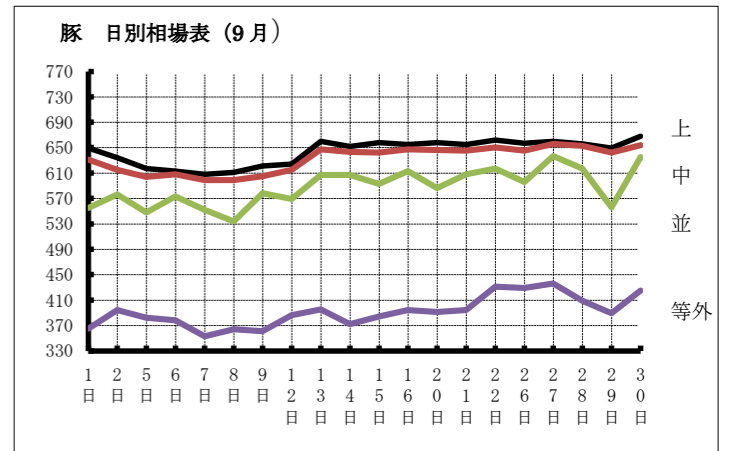
農林水産省による10月の肉豚出荷予測頭数では145万2,000頭（前年同月比102%）と予測している。当市場の10月集荷予定せり頭数は1万7,500頭、1日あたりでは約875頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると10月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万8,000t（前年同月比100.2%）、内訳は冷蔵輸入量が3万1,600t（同94.2%）、冷凍輸入量は4万6,400t（同104.6%）と予測。冷蔵品輸入量は、北米における現地価格の高騰、為替相場の変動など継続し、前年同月を下回ると予測する。また、3ヵ月平均は前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は為替相場に影響を受けているものの、北米産などの輸入量増加が見込まれることから、前年同月をやや上回ると予測する。また、3ヵ月平均は前年同月を大幅に上回ると予測する。

例年10月は出荷頭数が徐々に増える時期であるため、枝肉相場は下落傾向となる。しかし、新型コロナウイルス感染第7波が収束しつつあり、また全国旅行支援の実施により、外食需要の盛り上がりにより期待が高まっている。また、輸入品のコスト高による不安定な状況が継続し、出荷頭数とのバランス次第で、国産豚肉相場は大幅に下落しないことが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は580円前後、中物平均価格560円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127